

地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族や地域と協力し認知証の人が安心して生活でき、家族のような絆を結ぶ」という理念をつくりあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員全員で、1ヵ月に1回話し合いの時間を作り、本人らしい支援ができるよう取り組んでいる。2ヵ月に1回の地域との運営推進会議を開催し、地域との連携にも取り組んでいる。犬を飼っていることで、子供たちが遊びに来てくれ、子供との関わりの場が増えた。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や施設企画行事などで、地域の方々・家族とのかかわりなどで伝えるようにしている。家族に対しては、何でも話し合えるような環境を作り、理解をいただいている。家族会を施設企画行事の後などで行っている。家族だけで話し合う場も設けている。	○	地域の方々にも理解していただけるよう、様々な行事に参加を呼びかけていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の行事（ほたる見、花見、誕生会など）には、積極的に近所の方々にも声かけしている。また、入居者との散歩、買い物時の他者との交流も大事にし、取り組んでいる。	○	お茶会を定期的に行っているが、もっと多くの人たちとの交流がもてるよう努力していきたい。また、犬を飼っているので、近所の子供達が気軽に遊びに来てくれる環境になっている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議での情報交換の中で、参加できるものには、参加している。地域の自治会に加入し夏祭りや子ども会の行事などに参加している。	○	積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	施設企画行事（お茶会など）で、管理者を中心に 話し合い・気軽に立ち寄れるような場所になるよ う取り組んでいる。	○	地域の方の様子も知識として頭に入れながらもっ と気軽に立ち寄れる場所にしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が外部評価調査報告書へ目を通したが、 全員で改善課題について具体的な話し合いを実施 しなかった。	○	全員で改善課題について話し合い、更に改善でき るよう取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	地域の情報が得やすくなり、いろんな行事に参加 しやすくなった。運営推進会議には、職員が必ず 参加している。	○	全職員が理解できるよう更に報告及び理解できる よう取り組みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	市のケアマネジメント推進事業に参加してい る、ケアプランの向上に役立てるよう努めてい る。	○	積極的に参加し、サービスの質の向上に取り組ん でいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	管理者よりミーティングにて説明があった。ま た、研修の参加にて学ぶ機会があった。家族に は、成年後見制度のパンフレットを配布した。	○	研修などに参加し、理解していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修の参加、また、 日々、体・心身の変化には十分気を使い、ケアに 取り組んでいる。変化に気がいたら、すぐに管 理者に報告し、ミーティングを行い原因追求・防 止に努めている。	○	ケアに対してチームで取り組んでいけるよう努め たい。職員のストレスを吐き出す場をもちたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	重要事項説明書にて十分に説明し契約している。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	月に1度の介護相談員の訪問を設けている。また、苦情相談所への連絡先（ポスター）などの提示。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月発行しているホームたよりで暮らしぶりを伝えている。（写真など載せている）健康状態などその他については、その都度また、面会時に報告している。	○ 定期的に説明・報告ができるようになっていきたい。（ケアプランに基づき）
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の会として話し合いが実施されており、家族と何でも話し合える関係をつくるよう努めている。家族同士だけの話し合いが行われている。また、苦情相談所のポスターの提示も行っている。	○ 職員と家族との話し合いの場をもっと持ちたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月のミーティングや毎日の引継ぎなど意見を出しやすいので反映されている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	その都度、話し合い調整に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	管理者に定期的な面談をしてほしい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	研修の報告会をもち、全職員が研修内容を共有でき向上心が持てるよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	センター方式を活用し、聴くこと・受け止めることを大事にし、寄り添う努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から何でも相談していただけるような雰囲気作り・機会を設け、家族と十分話し合い、協力して利用者ができるだけ早くなじめるよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自己判断することなく、専門家である管理者を交えて、職員全員で話し合い対応に努めている。	○ 必要な支援を見極められるよう様々なサービス制度などを勉強し理解していきたい。 現在1名ディケアを利用されている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員と家族は、必ず、本人が安心するまで関わっていくことを約束とし、ケアに努めている。家族の協力でなじみのもの（家具・衣類・写真など）を取り入れ工夫している。また、今までの生活に関する多くの情報を家族から得るよう、それを日常に活かすようにしている。	○ 本人・家族・職員の間関係を大切にしながら1つでもかけることのないよう3つの関係でケアに取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人たちと過ごす中で、自分自身家族の思いで支援し、また職員が癒されている場面もあり、支えあう関係を築いている。昔の歌・昔の生活体験などから学ぶことも多い。	○ センター方式を更に理解したうえで、本人の気持ちを考えながら支えあう関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設企画行事に家族が参加していること、また、些細なことでも家族と話し合える関係を築き、家族・職員と同じ思いで支えていく関係に努めている。	○	家族の思いを大切にしていきながら、本人がより穏やかに過ごせるよう、家族と同じ思いでケアに取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族、両方が聴いてうれしい、また、楽しい報告ができるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと面会も多くある。また、手紙の代筆・電話などで近況報告をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	支えあう環境づくりには努めているが、認知症レベル・相性などの問題で困難な場面もあるが、職員が間に入ったり食事・リビングでの座席など気配りをしている。利用者の間に、職員が入ることで楽しい関係が保てる場合がある。	○	共通の話題・行動を支えあうきっかけを見つけ出す努力は日々していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近況を連絡しあったり、時にはきっかけを見つけ訪問したりして付き合いを大事にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、家族の意向を聴きながら本人の思い・気持ちに添えるよう努めている。また、困難な場合は、管理者・職員同士で話し合い、本人本位を基本に対応している。	○ センター方式の活用をし、本人本位を基本に対応していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら努めている。	○ センター方式の活用をし、本人らしく暮らせる支援していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を活用し、毎日の言葉・表現などよく観察し、現状を把握するよう努めている。	○ センター方式の活用をし、小さいことも見逃さず、現状を把握するようつとめていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月管理者を交えたミーティング、また、毎日の引継ぎで話し合いを実施し、問題などあれば、その都度話し合いをしている。	○ ケアプランがまだ完成なものではないのでこれからもっと力を入れ、本人らしいケアプランを作成したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヵ月から2ヵ月に1度のケアプランの見直しを行っている。	○ 変化が生じた際、すぐにケアプランの作成をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式シートD-4の活用にて情報を共有し、2ヵ月に1度の見直しにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の方とのコミュニケーションをとり、地域の中での生活を大事にし、地域の方が、施設に気軽に立ち寄れるような関係を持てるよう努めている。	○	地域の人たちが、気軽に寄れるサロンのような機能を作りたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署に協力を得て、訓練を行っている。また、駐在所警官にも挨拶に行ったりお茶会に参加してもらったりと交流を図る。小学校区のおたすけハウスとしても協力している。	○	地域との関わる機会をもっとつくっていききたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ディケアを利用し、家族や事業所と話し合いながら支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいている。	○	これからもっと密に関係をもっていきたい。センター方式推進事業にて協力を得る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	終末期の迎え方などを含め、家族と主治医・職員とでケアプランを基に話し合いを蜜に行い、同じ方向で支援していきたい。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	医師を交え終末期に向けた方針について話し合う。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と十分な話し合いをもち、なじみのもの・身の回りのものなど環境の変化を少なくして不安を少なくするよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重しプライバシーを損ねない対応についてみんなで取り組んでいる。個人情報の取り扱いに留意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その都度、様々な場面で本人の意思の確認を行いながら表現できない場合は、言葉・表現に留意して行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個々の希望・ペースを大切に支援している。	○	時間に流されないよう本人ペースや希望を大切に支援する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2カ月に1度の美容（カットマン）。その人らしい身だしなみこころがけている。	○	化粧（口紅）をする機会を増やす。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	個々のレベル低下など、日々、状態をよく把握しながら食事を楽しむことができるよう支援していきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	個々の合図の仕方を見逃さないよう心がけ、わからなくなっている利用者への声かけには十分気をつけていきたい。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	本人のサインを見逃さないよう心がけていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	音楽を聴いたりビデオなどで楽しみを増やしていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でのお金を持つ機会が少ない。	○	本人が希望した上で、家族と相談しながら機会をつくり支援したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ディケアへ出かけたり、散歩や買い物に出かける支援をしている。	○	散歩・買い物の機会の少ない利用者にも声かけし、戸外に出て庭の花・犬と触れ合う機会をもう少し増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設の季節行事に取り組み、家族とともに又、ボランティアの手も借りながら外出をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レベルに応じて支援している。本人ができない場合は、職員が代行している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるよう、常にオープンなケアに取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通し正しく理解したうえで、十分に気をつけている。しないケアに取り組んでいる。	○	日ごろから常に職員間で話し合える場を設け、更なる学習スキルアップをしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	夜間の安全についてミーティングで、話し合っていきたい。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	更に職員ひとりひとりが危機管理の意識を持ち、責任と安全に努めていきたい。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	気を緩めることなく常に意識しておきたい。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	初期対応や救急法を自分のものとして行えるよう学習していきたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	職員は、研修を受けている。施設内でも細かく訓練も行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その都度、家族の面会時などに説明し、対応策を管理者を含め話し合っている。	○	リスクについて職員が把握できるよう学習していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から体調変化や異変の発見に努めており、職員間でも情報を共有し、すぐに看護師である管理者に報告し対応ができるよう体制をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、職員が責任を持ち不明な点は、医師や管理者に相談し症状の変化の確認につとめている。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	オリゴ糖・ヨーグルト・バナナ・ひじきなどまた、水分摂取量を増やす。運動不足も原因となることから散歩も支援していく。	○	主治医との連携を図る。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々の状態に応じた口腔ケアに努め、月に1度の歯科受診時の口腔ケア指導も受けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を見て、バランスや量を考え、食べやすいように支援している。特に水分摂取量は留意している。	○	管理栄養士にみてもらい、栄養バランスやカロリーについてもチェックしてもらおう。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関する資料に目をおし、ミーティングなどで確認する。手洗いの徹底・てすり、まな板などの消毒の徹底は行っている。インフルエンザについては、予防接種をしている。肺炎球菌ワクチンの接種を行った。	○	理解できているかミーティングなどで確認していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の清掃。（ハイターかけ・消毒・熱消毒など）食材についても十分留意している。	○	冷蔵庫および食器棚なども定期的に点検を行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭には、花・植木があり、木造建築建て。犬もいる。玄関も普通の家と同じ広さのつくりがなされ、普段と変化がないようにしている。庭にテーブル・イスを置き、外でくつろげる状態を作った。	○	庭の手入れにも気を配っていききたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感・季節感は、それぞれに取り入れ工夫している。（雛飾り・七夕飾りなど）植木を整理し、少し散歩できるようになり、犬と触れ合うこともできる。	○	生活感・季節感は、取り入れ工夫していききたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、長いすを置いたり、外にはパラソル付ベンチ・テーブルを設置している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なじみのものを使って工夫しながら居心地よく過ごせるような環境づくりをしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度調節はこまめに行っている。換気もしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリー・手すりなどの設置を工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>個々の状態を把握しながら混乱や失敗を招く前に配慮を心かけている。また、共有する場所にはプレートを貼るなどしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>自由にベランダや庭に出られるような環境づくりに心がけている。ベランダにて、タバコを吸ったり、犬と触れ合うことができる。植木が減り、広くなった。利用者と一緒に庭の花を楽しんだり草取りなどできる。</p>	○	<p>草取りを行ったり、危険物や不要物を取り除いたり今後も行っていきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の人のケアマネジメントツールの導入により、職員が本人の視点にたって介護することが当たり前となり、本人に寄り添う介護の徹底に取り組んでいる。本人と家族が望まれば、最後まで暮らしていただける終の棲家としての生活を支えることができ、家族と職員の絆も深まり、入居者は穏やかに過ごしてもらっている。